

2011年4月7日(木)

中小企業論

2011年度春学期「中小企業論」講義シラバス

担当：三嶋恒平（みしまこうへい）

はじめまして。熊本学園大学商学部の2011年度春学期における「中小企業論」を担当する三嶋恒平です。熊本学園大学に赴任したのは2008年4月とまだ経験が十分ではありません。そうしたことから、講義内容やその成果を向上させるようなことを色々試行錯誤しながら、受講者の皆さんと一緒に勉強していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

1 講義の目的と進め方

(1) 講義の主題と目的

本講義の主題は、今日の社会経済において中小企業が果たす役割とその意義について、受講者の皆さんが自分なりの意見を持てるようになることとします。そこで本講義の目標は、中小企業に関する歴史と理論と実態のそれぞれを往復しながら、皆さんが次の4点についての理解を得られることとします。

第1に、中小企業の歴史です。中小企業の歴史を学ぶことの目的は、今日の中小企業を相対化し、今後の中小企業の展望を示すことにあります。

第2に、中小企業と大企業との関係に関する理論と実態です。企業間関係の理論と実態を学ぶことによって、大企業との関係において規定されることの多い中小企業の特徴をより明確に示すことができるでしょう。

第3に、中小企業を核とした産業集積についてです。今日、本学のある熊本、九州では自動車・オートバイ関連産業の集積が著しいため、産業集積を検討することによって、皆さんにとって身近な熊本や九州の企業、経済についての理解も得られることでしょう。

第4に、中小企業の国際化です。上に見た産業集積は九州に加え、アジアなどの発展途上国でも大きな関心を集めています。なぜなら、中小企業を軸とした裾野産業をどのように構築するかにより当該国の産業形成が大きく左右されるようになっているからです。

(2) 講義の進め方

基本的に教科書に基づきながら中小企業に関する歴史、理論、事例を説明していきます。事例の検討に関しては、参考書や担当者のこれまでの調査・研究を踏まえた内容のものも議論していきます。形式として、板書ではなくパワーポイントを活用していきます。

本講義ではテーマごとにクールを設け、各クールは3~4回の講義から構成することになります。今回の中小企業論のクールのテーマは以下の5つです。これらは中小企業論を学ぶ上で大事なテーマばかりです。各テーマで一部内容に重複が生じますが、それらは理解の上で重要な点です。それゆえ、そうした問題については、多方面から眺め、何度も考察し、スパイラルを描くようにして理解を深めていきましょう。

〈中小企業論の5つのクール〉

第1クール：中小企業の概要と歴史

第2クール：政策と金融

第3クール：大企業との関係と産業集積

第4クール：グローバル化

第5クール：熊本の企業とまとめ

各回の講義では、その日学ぶことの目的を示すことによって、受講者の皆さんが意識的に取り組めるようにしたいと考えています。また、最後にまとめとして簡単な問題を解きながら、学んだことの理解の活性化を図りたいと思います。なお、こうした各回の講義の最後の問題の中からいくつか選んで各クールのまとめの回に再度問題を解いてもらい、理解の定着をねらいます。

さらに本講義では、講義で説明した歴史や理論が中小企業の現場ではどのような問題となって表れているのか、そして中小企業はそれにどのように対応しているのかを、中小企業関係者を講義に招き直接うかがう機会としてゲスト講義を行います。ゲスト講演は2回行い、次の期日に行う予定ですが、講演予定者の確約をとっていないため、現在のところ、まだ未定です。日時・ゲスト講師が決定しましたら、再度連絡いたします。

5月24日（火）：14:40~16:40（レポートの提出〆切は6月2日（木）の講義前まで）

6月28日（火）：14:40~16:10（レポートの提出〆切は7月7日（木）の講義前まで）

レポートは1枚あたり40字30行の1200字のページ設定としたものを1枚以上とします。レポートの書き方や詳細については、5月19日（木）の講義で説明します。

(3) コミュニケーションカード

本講義は受講者の皆さんとの双方向性を重視したいため、コミュニケーションカード（講義に関する質問、意見、批判、要望など）を授業終了後に毎回提出してもらいたいと思います。コミュニケーションカードでいただいた質問や意見などについては、その次の各クールのまとめの講義の回の冒頭に回答していく予定です。コミュニケーションカードは提出しただけでは成績に換算しません。ただし、興味深い意見や講義内容をよく踏まえた質問などの場合は、最終成績の評定に勘案したいと考えています。

(4) 教科書・参考書・参考文献

教科書として、次のものを指定します。以下で各回の講義が教科書のどの部分に対応するか明らかにしますので、講義までに当該部分をあらかじめ読んでくることを期待します。

植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一（2006）『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣コンパクト。

また、次の中小企業白書も適宜参照していきます。ただし、中小企業白書は中小企業庁のホームページからも無料でダウンロードが可能なので、講義では適宜参照箇所を指定していきたいと考えています。

中小企業庁編（2010）『中小企業白書 2010年版 ピンチを乗り越えて』ぎょうせい。

これらの教科書以外に、参考書として次の2冊を挙げます。藤本（2002）は戦略論や生産管理論の理論的な考察を踏まえて、日本の自動車産業の競争優位の源泉について議論したものです。佐藤・大原編（2006）はアジア各国のオートバイ産業について、地域研究者が地場系企業の観点から描いたものです。これらは図書館にもあるはずなので手にとってみるのもよいでしょう。藤本（2002）については、ブックオフなどにいけば100円で古本が手に入るかもしれません。

藤本隆宏（2002）『能力構築競争』中公新書。

佐藤百合・大原盛樹編（2006）『アジアの二輪車産業』アジア経済研究所。

中小企業論をより深く勉強したい場合、次の文献を参照してみてください。(1) は中小企業論一般を教科書よりも詳しく言及し、(2) は中小企業の海外展開に詳しいです。

(1) 植田浩史（2004）『現代日本の中小企業』岩波書店。

(2) 関満博（2003）『現場発ニッポン空洞化を超えて』日経ビジネス人文庫。

(5) ホームページ (<http://www2.kumagaku.ac.jp/teacher/mishima/>)

受講者の皆さんの利便性を向上させるために本講義ではホームページを開設します。アドレスは上記のとおりです。ホームページの内容としては、シラバス、その日の講義で使ったパワーポイントのファイルをアップしていく予定です。

(6) 講義担当者の連絡先

講義の内容や中小企業論に関して質問があれば、できるだけ講義中に質問してください。といいますのも、一人が疑問に思ったことはきっと他の多くの受講生も疑問に思っていることであり、講義をさらに掘り下げていくことになるからです。けれども、そうはいつても大勢の前で質問しづらいこともあると思いますので、講義の前後の休み時間やメール、研究室での質問も歓迎します。メールアドレスは以下の通りです。

mishima（あつと）kumagaku.ac.jp

研究室は研究棟 5 階の「527」号室です。研究棟 1 階からエレベータで 5 階まで上がり、そして、エレベーターを出て右側に進み、突き当たりを右に行き、その廊下を一番奥に進んだところの右手にあります。もちろん、先にあげたコミュニケーションカードもフルに活用してもらえたら、と思います。

2 成績評定の方法

(1) ゲスト講義に関するレポート (30 点)

(2) 期末試験 (持込不可) (70 点)

成績評定は上記 2 つの合計点数に従って行います。レポートの書き方および評価のポイントに関しては、5 月 19 日 (木) の講義の際にガイドを改めて行います。これを参考に論理的な考察方法とそれを意見にすることに取り組んでもらえれば、と考えます。なお、レポートの提出方法は印刷したものを研究棟受付に提出する、という形態のみとします。ただし、こうした提出方法についても 5 月 19 日 (木) に説明します。

期末試験に関して、本講義の最終日である 7 月 19 日 (火) に詳しく説明します。現在のところ、(1) 各クールのまとめの問題を踏まえた選択形式の問題、(2) 事前に問題文を皆さんに告知した記述問題、を考えています。持ち込みは一切不可とします。

*** 出欠の扱い→成績評定のプラスとはしない**

本講義は出席を一切とりません。また出席状況も成績評定の対象としません。テストのみを受けて所定の点数をとれば単位は取得できると考えられることから、無理に出席を強いるつもりはありません。ただし、他の受講者に迷惑をかけることになる講義に関係ない私語と携帯電話による通話は厳禁とします。こうした行為については一度は注意をしますが、改善が見られなければ履修放棄とみなします。ご注意ください。

また、商学部として講義の履修態度について統一的に厳しく対応していくという方針が出されています。そこで、本講義においても、講義中の態度等について問題がある場合、適宜注意し、改善が見られない場合、履修放棄とみなします。

3 講義の計画

講義は1回90分、全29回からなります。本年度は以下の曜日・時間に、次のような計画に従って、「中小企業論」に関する講義を進めていく予定です。

【講義の開催曜日と時間・教室】

火曜日 4限 (14:40～16:10)・1221 教室

木曜日 4限 (14:40～16:10)・1221 教室

【講義の計画】

4月7日(木)：第1回 講義のガイダンス

〈第1クール：中小企業の概要と歴史〉

4月12日(火)：第2回 中小企業とは何か →教科書 序章 (pp.1-16)

4月14日(木)：第3回 中小企業の歴史(1)：経済発展と中小企業
～戦前から高度成長期まで →教科書 第1章 (pp.19-36)

4月19日(火)：第4回 中小企業の歴史(2)：経済構造の変化と中小企業
～1970年代以降 →教科書 第2章 (pp.37-55)

4月21日(木)：第5回 第1クールのまとめ

〈第2クール：政策と金融〉

4月26日(火)：第6回 中小企業政策の展開 →教科書 第3章 (pp.57-76)

4月28日(木)：第7回 中小企業と金融(1) →教科書 第4章 (pp.77-102)

《5月3日(火) 憲法記念日、5月5日(木) こどもの日。休講》

5月10日(火)：第8回 中小企業と金融(2) リーマンショック①

5月12日(木)：第9回 中小企業と金融(3) リーマンショック②

5月17日(火)：第10回 中小企業と金融(4) リーマンショック③

5月19日(木)：第11回 第2クールのまとめ

+レポートの書き方とゲスト講義の案内

5月24日(火)：第12回 ゲスト講義(第1回) 予定

→熊本県信用組合の方から金融の現場に関して

〈第3クール：大企業との関係と産業集積〉

5月26日(木)：第13回 大企業と中小企業の関係

→教科書 第5章 (pp.105-122)

5月31日(火)：第14回 大企業と中小企業の関係

～国内事例の検討 日本の自動車産業 →参考書 藤本(2002)

6月2日(木)：第15回 産業集積と中小企業

→教科書 第6章 (pp.123-140)

6月7日(火)：第16回 産業集積と中小企業に関する国内事例の検討(1)

～九州と熊本の自動車・オートバイ産業

6月9日(木)：第17回 産業集積と中小企業に関する国内事例の検討(2)

～九州と熊本の自動車・オートバイ産業

6月14日(火)：第18回 第3クールのまとめ

〈第4クール：グローバル化〉

6月16日(木)：第19回 グローバル化とは何だろうか？

6月21日(火)：第20回 グローバル化と中小企業 →教科書 第7章 (pp.141-156)

6月23日(木)：第21回 グローバル化と中小企業に関する海外事例の検討
～東南アジアのオートバイ産業

6月28日(火)：第22回 ゲスト講義(第2回) 予定
→熊本県の中小企業の社長さんを予定

6月30日(木)：第23回 第4クールのまとめ

〈第5クール 熊本県の中小企業とまとめ〉

7月5日(火)：第24回 中小企業の現状と課題 →中小企業白書2010年版

7月7日(木)：第25回 熊本県の中小企業①

7月12日(火)：第26回 熊本県の中小企業②

7月14日(木)：第27回 熊本県の中小企業③

7月19日(火)：第28回 第5クールのまとめ
+期末試験に関する説明

(第29回 期末試験：7月25日～8月4日のいずれか)

以上